

米国 マインドは改善も依然として低水準(10年4月消費者マインド)

発表日: 2010年4月27日(火)

～高い失業率を背景に現状判断は低いまま～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

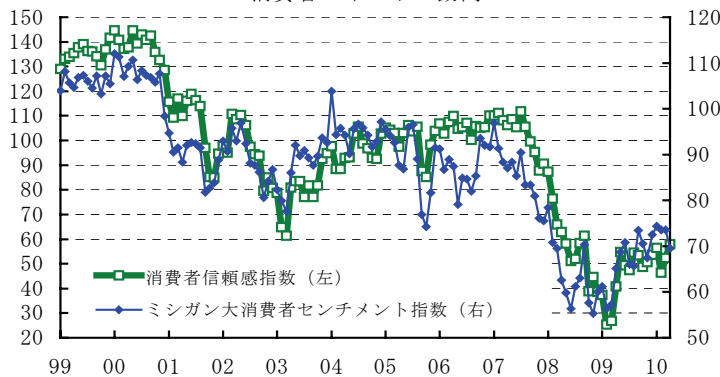
4月のCB消費者信頼感指数は57.9と前月比+5.6ポイントの改善

4月のCB消費者信頼感指数は、57.9（前月52.3）と前月比5.6ポイント上昇し市場予想の53.5を上回った。景気回復の持続を示す経済指標の公表、株高などを受け上昇した模様。一方で、4月はミシガン大学消費者センチメント、ABC消費者信頼感が悪化するなど、調査によって結果はまちまちとなっている。さらに、全ての消費者マインドは、失業率の高止まりなど足下の厳しい雇用情勢に加えて、先行きの雇用に対する慎重な見方から、依然低い水準にとどまっており、個人消費の緩やかな回復を示唆している。

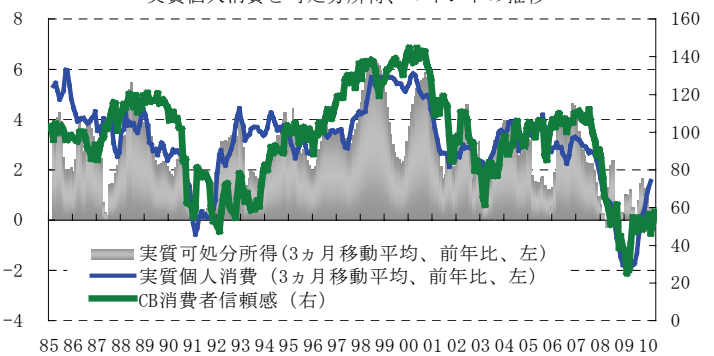
市場予想を上回った同統計発表直後の市場の反応をみると、債券市場では10年債利回りがS & Pケースシーラー住宅価格指数が前月比で下落したことなどを背景に低下していた水準から小幅上昇した。為替市場ではドルが対円で一旦強含んだが、対ユーロでは反応薄。株価指数は小幅上昇も、直ぐに水準を戻した。

今後、景気回復が続くものの雇用の回復ペースの鈍さなどを背景に、現状指数は緩やかな上昇となろう。一方、期待指数は景気回復期待の強まりによって改善するが、既にかなり上昇していることから改善余地は限定的。このため、消費者マインドは上昇するものの、そのペースが鈍いうえ、低い水準にとどまると予想されるため、個人消費の拡大ペースを抑制する要因になると見込まれる。

消費者マインドの動向



(%) 実質個人消費と可処分所得、マインドの推移



(出所) 米商務省、CB

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

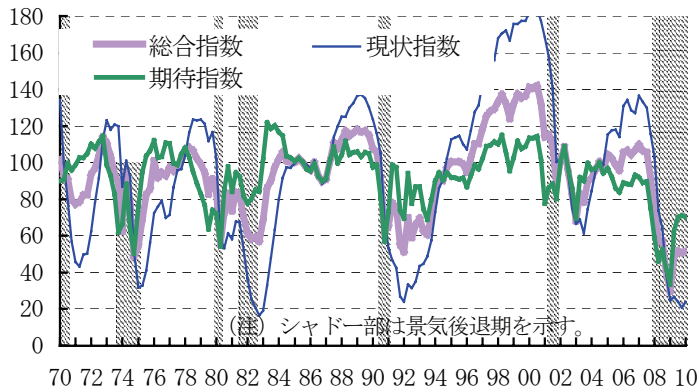
	消費者信頼感指数			雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
		期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	
09/10	48.7	67.0	21.1	3.5	49.4	20.8	18.2	4.7	2.3	70.6	68.6	73.7
09/11	50.6	70.3	21.2	3.1	49.2	19.7	14.6	4.5	2.1	67.4	66.5	68.8
09/12	53.6	75.9	20.2	3.1	48.1	21.2	11.8	3.9	1.7	72.5	68.9	78.0
10/01	56.5	77.3	25.2	4.4	46.5	20.7	12.7	5.2	2.4	74.4	70.1	81.1
10/02	46.4	62.9	21.7	4.0	47.3	16.1	15.9	5.3	2.7	73.6	68.4	81.8
10/03	52.3	70.4	25.2	4.0	46.3	18.0	13.6	3.9	2.8	73.6	67.9	82.4
10/04	57.9	77.4	28.6	4.8	45.0	19.8	12.6	5.1	2.0	69.5	62.3	80.7

(出所) The Conference Board, University of Michigan

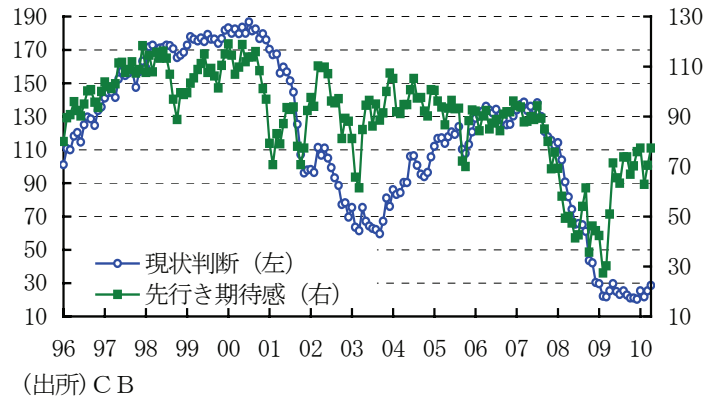
(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

消費者信頼感指数の推移(四半期)



消費者信頼感指数の推移



現状指数が前月比+3.4p上昇、期待指数が同+7.0p上昇 内訳では、現状指数が前月比+3.4ポイント上昇し、期待指数が同+7.0ポイント上昇した。現状指数は、足下の経済情勢の改善が影響した。一方、期待指数は、景気の先行きに対する楽観的な見方が強まり、雇用、所得の先行きに対する悲観的な見方が弱まったため上昇した。

現状判断では「雇用」、「景気」がマイナス幅を縮小 現状指数の構成項目では、「雇用」、「景気」がマイナス幅を縮小し現状指数全体は改善した。詳細では、現在の雇用環境に対する悲観的な見方は弱まった【現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が▲40.2と前月の▲42.3からマイナス幅を縮小】。さらに、現在の景気に対する悲観的な見方が弱まった【現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が▲31.1と前月の▲33.6からマイナス幅を縮小した】。

現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）は、大幅なマイナス水準にとどまっていること等から、4月の失業率は9.7%と前月と同水準が予想される。

期待では「景気」がプラス幅を拡大し、「雇用」、「収入」がマイナス幅を縮小 期待指数の構成項目では、「景気」がプラス幅を拡大し、「雇用」、「収入」がマイナス幅を縮小したため、期待指数全体も改善した。詳細をみると、景気の先行きに対する楽観的な見方が強まった【6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+7.2と前月の+4.4からプラス幅を拡大した】。雇用の先行きに対する悲観的な見方が弱まった【6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲2.0と前月の▲7.3からマイナス幅を縮小】。加えて、先行きの収入については悲観的な見方が強まった【6ヵ月後の収入が「増加する」-「減少する」が▲6.2と前月の▲6.6からマイナス幅を縮小】。

インフレ見通しは高止まり インフレに関する調査では、4月のインフレ見通しが5.3%（前月5.4%）と、高止まりしている。また、1年後の金利見通しでは景気の先行きに対する楽観的な見方が強まったことから、金利が上昇するとの見方が強まっており、目先の耐久財、住宅需要を下支えする要因となろう。